



Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド

Release 7.x

Published August 25, 2008

**【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。**

**本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
米国サイト掲載ドキュメントとの差異が生じる場合があるため、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。
また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。**

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

CCDE, CCENT, Cisco Eos, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, the Cisco logo, DCE, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn and Cisco Store are service marks; and Access Registrar, Aironet, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, IronPort, the IronPort logo, LightStream, Linksys, MediaTone, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, Network Registrar, PCNow, PIX, PowerPanels, ProConnect, ScriptShare, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, TransPath, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0807R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド
Copyright © 2008 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2008, シスコシステムズ合同会社 .
All rights reserved.



CONTENTS

	はじめに	v
	対象読者と用途	vi
	表記法	vi
	関連資料	vii
	マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、およびセキュリティ ガイドライン	vii
	シスコのテクニカル サポート	viii
	Service Request ツールの使用	viii
	その他の情報の入手方法	ix
<hr/>		
CHAPTER 1	Cisco Unity Connection Serviceability の概要	1-1
	Cisco Unity Connection Serviceability の概要	1-2
	管理者ワークステーションでのブラウザの設定	1-3
	Firefox	1-3
	Microsoft Internet Explorer	1-3
	Cisco Unity Connection Serviceability へのアクセス	1-5
	Cisco Unity Connection Serviceability インターフェイスの使用	1-6
<hr/>		
CHAPTER 2	アラームの使用方法	2-1
	アラームの概要	2-1
	アラーム定義	2-1
	アラーム定義の表示	2-2
<hr/>		
CHAPTER 3	トレースの使用方法	3-1
	トレースの概要	3-1
	トレース ログ ファイルの設定	3-2
	マイクロ トレースの有効化	3-3
	使用可能なマイクロ トレース	3-4
	マクロ トレースの有効化	3-8
	使用可能なマクロ トレース	3-9
<hr/>		
CHAPTER 4	Cisco Unity Connection クラスタ内のサーバのステータスとポートの管理	4-1

CHAPTER 5

Cisco Unity Connection サービスの管理 5-1

Cisco Unity Connection サービス 5-1

Control Center でのサービスの管理 5-3

CHAPTER 6

レポートの使用方法 6-1

レポートの概要 6-1

レポート設定パラメータの設定 6-5

レポートの生成と表示 6-6

INDEX

索引



はじめに

この章には、次の項があります。

- [対象読者と用途 \(P.vi\)](#)
- [表記法 \(P.vi\)](#)
- [関連資料 \(P.vii\)](#)
- [マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、およびセキュリティ ガイドライン \(P.vii\)](#)
- [シスコのテクニカル サポート \(P.viii\)](#)
- [Service Request ツールの使用 \(P.viii\)](#)
- [その他の情報の入手方法 \(P.ix\)](#)

対象読者と用途

『Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド』では、Cisco Unity Connection Serviceability を使用して、アラーム、トレース、クラスタ、およびサービスを設定する手順について説明します。Cisco Unity Connection または Cisco Unified Communications Manager Business Edition システムを設定、トラブルシューティング、およびサポートする管理者を対象としています。IP ネットワーキング テクノロジーに関する知識が必要です。



ヒント

Cisco Unity Connection では、Cisco Unified Serviceability と Cisco Unity Connection Serviceability の両方でサービスアビリティ関連のタスクを実行します。たとえば、問題をトラブルシューティングするには、両方のアプリケーションで、サービスの起動や停止、アラームの表示、およびトレースの設定が必要です。

Cisco Unified Serviceability は、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーション ガイド』で説明されている機能をサポートします。Cisco Unity Connection Serviceability の特定のタスクについては、このマニュアル『Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

表記法

表 1 『Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド』での表記法

表記	説明
太字	次の場合は太字を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> キーおよびボタン名（例：[OK] をクリックします）。 ユーザが入力する情報（例：[ユーザ名] ボックスに Administrator を入力します）。
<> (山カッコ)	ユーザが入力するパラメータを囲むために使用します（例：ブラウザから、https://<Cisco Unity Connection サーバの IP アドレス>/cadmin に移動します）。
- (ハイフン)	同時に押す必要があるキーを表します（例：Ctrl-Alt-Delete を押します）。
> (右向きの山カッコ)	選択する順序を表します（例：Cisco Unity Connection の管理で、[連絡先]>[システム連絡先]と選択します）。

『Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド』では、次の表記法も使用します。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

関連資料

Cisco.com 上の Cisco Unity Connection に関するマニュアルの説明と URL については、『*Documentation Guide for Cisco Unity Connection Release 7.x*』を参照してください。このドキュメントは Cisco Unity Connection に同梱されていますが、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/roadmap/7xcucdg.html から入手することもできます。

Cisco.com 上の Cisco Unified Communications Manager Business Edition に関するマニュアルの説明と URL については、『*Cisco Unified Communications Manager Business Edition Documentation Guide*』を参照してください。このドキュメントは Cisco Unified CMBE に同梱されていますが、http://www.cisco.com/en/US/products/ps7273/products_documentation_roadmaps_list.html から入手することもできます。

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、およびセキュリティ ガイドライン

マニュアルの入手方法、Service Request ツールの使用方法、および追加情報の収集方法については、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。『*What's New in Cisco Product Documentation*』には、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

Really Simple Syndication (RSS) フィードとして『*What's New in Cisco Product Documentation*』に登録し、リーダアプリケーションを使用して、コンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定します。RSS フィードは無料サービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

シスコのテクニカル サポート

次の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。

<http://www.cisco.com/en/US/support/index.html>

以下を含むさまざまな作業にこの Web サイトが役立ちます。

- テクニカル サポートを受ける
- ソフトウェアをダウンロードする
- セキュリティの脆弱性を報告する、またはシスコ製品のセキュリティ問題に対する支援を受ける
- ツールおよびリソースへアクセスする
 - Product Alert の受信登録
 - Field Notice の受信登録
 - Bug Toolkit を使用した既知の問題の検索
- Networking Professionals (NetPro) コミュニティで、技術関連のディスカッションに参加する
- トレーニング リソースへアクセスする
- TAC Case Collection ツールを使用して、ハードウェアや設定、パフォーマンスに関する一般的な問題をインタラクティブに特定および解決する

Japan テクニカル サポート Web サイトでは、Technical Support Web サイト (<http://www.cisco.com/techsupport>) の、利用頻度の高いドキュメントを日本語で提供しています。Japan テクニカル サポート Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

Service Request ツールの使用

Service Request ツールには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

日本語版の Service Request ツールは次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac/sr/>

シスコの世界各国の連絡先一覧は、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/warp/public/687/Directory/DirTAC.shtml>

その他の情報の入手方法

シスコの製品、サービス、テクノロジー、ネットワークング ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインで入手できます。

- シスコの E メール ニュースレターなどの配信申し込みについては、Cisco Subscription Center にアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/offer/subscribe>
- 日本語の月刊 Email ニュースレター「Cisco Customer Bridge」については、下記にアクセスください。
http://www.cisco.com/web/JP/news/cisco_news_letter/ccb/
- シスコ製品に関する変更やアップデートの情報を受信するには、Product Alert Tool にアクセスし、プロファイルを作成して情報の配信を希望する製品を選択してください。Product Alert Tool には、次の URL からアクセスできます。
<http://tools.cisco.com/Support/PAT/do/ViewMyProfiles.do?local=en>
- 『Cisco Product Quick Reference Guide』はリファレンス ツールで、パートナーを通じて販売されている多くのシスコ製品に関する製品概要、主な機能、製品番号、および簡単な技術仕様が記載されています。『Cisco Product Quick Reference Guide』を発注するには、次の URL にアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/go/guide>
- ネットワークの運用面の信頼性を向上させることのできる最新の専門的サービス、高度なサービス、リモート サービスに関する情報については、Cisco Services Web サイトを参照してください。Cisco Services Web サイトには、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/go/services>
- Cisco Marketplace では、さまざまなシスコの書籍、参考資料、マニュアル、ロゴ入り商品を提供しています。Cisco Marketplace には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/go/marketplace/>
- DVD に収録されたシスコの技術マニュアル (Cisco Product Documentation DVD) は、Product Documentation Store で発注できます。Product Documentation Store には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/go/marketplace/docstore>
- 日本語マニュアルの DVD は、マニュアルセンターから発注できます。マニュアルセンターには下記よりアクセスください。
http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/manual_center/index.shtml
- Cisco Press では、ネットワーク、トレーニング、認定関連の出版物を発行しています。Cisco Press には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.ciscopress.com>
- 日本語のシスコプレスの情報は以下にアクセスください。
<http://www.seshop.com/se/ciscopress/default.asp>
- 『Internet Protocol Journal』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『Internet Protocol Journal』には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/ipj>
- 『What's New in Cisco Product Documentation』は、シスコ製品の最新マニュアル リリースに関する情報を提供するオンライン資料です。毎月更新されるこの資料は、製品カテゴリ別にまとめられているため、目的の製品マニュアルを見つけることができます。
<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>
- シスコの Web サイトの各国語版へは、次の URL からアクセスしてください。
http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml



(注) このマニュアルには、日本語化されたマニュアル名と英語版 URL が併記された箇所があります。日本語版マニュアルを参照する場合は、次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/index_uc_cuc.shtml



Cisco Unity Connection Serviceability の概要

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability の基本情報について説明します。この章の構成は、次のとおりです。

- [Cisco Unity Connection Serviceability の概要 \(P.1-2 \)](#)
- [管理者ワークステーションでのブラウザの設定 \(P.1-3 \)](#)
- [Cisco Unity Connection Serviceability へのアクセス \(P.1-5 \)](#)
- [Cisco Unity Connection Serviceability インターフェイスの使用 \(P.1-6 \)](#)

Cisco Unity Connection Serviceability の概要

Cisco Unity Connection Serviceability は、Cisco Unity Connection の Web ベースのトラブルシューティング ツールです。次の機能があります。

- Connection アラーム定義の表示。これは、トラブルシューティングに使用できます。
- Connection トレースの有効化。Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で、トレース情報を収集して表示できます。
- Connection トレース情報を保存するログの設定。
- クラスタとサーバの管理 (Connection クラスタが設定されている場合)



(注) Connection クラスタ機能は、Cisco Unified Communications Manager Business Edition では使用できません。

- Connection 機能サービスのステータスの表示。
- Connection サービスのアクティベート、デアクティベート、起動、および停止。
- さまざまなファイル形式で表示できるレポートの生成。

使用するサービスとコンポーネントによっては、Cisco Unity Connection Serviceability と Cisco Unified Serviceability の両方でサービスアビリティ関連のタスクを実行する必要があります。たとえば、問題をトラブルシューティングするには、両方のアプリケーションで、サービスの起動や停止、アラームの表示、およびトレースの設定が必要です。

Cisco Unity Connection Serviceability は、『Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド』で説明されている機能をサポートしています。Cisco Unified Serviceability の使用方法については、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

管理者ワークステーションでのブラウザの設定

Connection サーバまたは Cisco Unified CMBE サーバの Cisco Unity Connection Serviceability、Cisco Unity Connection の管理、Cisco Unified Serviceability、Disaster Recovery System、およびその他の Web アプリケーションにアクセスするには、管理者ワークステーションでブラウザを適切に設定する必要があります。

コンピュータにインストールされているブラウザに応じて、次の該当する項を参照してください。

- [Firefox \(P.1-3 \)](#)
- [Microsoft Internet Explorer \(P.1-3 \)](#)

Firefox

Connection Web アプリケーションにアクセスできるように Firefox を設定するには、次の作業を行います。

1. 適切なブラウザ設定に必要なソフトウェアがインストールされていることを確認します。次の該当する要件ドキュメントの「ソフトウェア要件：管理者ワークステーション」の項を参照してください。
 - 『Cisco Unity Connection システム要件』。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_installation_guides_list.html から入手可能です。
 - 『Cisco Unity Connection システム要件 Cisco Unified CMBE 対応』。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps7273/prod_installation_guides_list.html から入手可能です。
2. Firefox を次のように設定します。
 - a. Java を有効にする。
 - b. [JavaScript を有効にする] > [JavaScript 詳細設定] で [画像を別のものに置き換える]
 - c. cookie を有効にする (セキュリティのため、[元の Web サイトからの cookie のみ保存する] に設定することをお勧めします)

Microsoft Internet Explorer

Connection Web アプリケーションにアクセスできるように Internet Explorer を設定するには、次の作業を行います。

1. 適切なブラウザ設定に必要なソフトウェアがインストールされていることを確認します。次の該当する要件ドキュメントの「ソフトウェア要件：管理者ワークステーション」の項を参照してください。
 - 『Cisco Unity Connection システム要件』。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_installation_guides_list.html から入手可能です。
 - 『Cisco Unity Connection システム要件 Cisco Unified CMBE 対応』。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps7273/prod_installation_guides_list.html から入手可能です。
2. Internet Explorer を次のように設定します。
 - a. アクティブスクリプトを使用可能にする。
 - b. ActiveX コントロールをダウンロードして実行する。
 - c. Java スクリプトを使用可能にする。

- d. すべてのクッキーを受け入れる。
- e. 保存しているページの新しいバージョンを自動的に確認する。
- f. [中 - 高] プライバシーを使用可能にする。
- g. Microsoft Windows Server 2003 を実行しており、Internet Explorer バージョン 6.0 を使用して Cisco Personal Communications Assistant にアクセスする場合は、次の「[信頼済みサイト] のリストに Connection サーバまたは Cisco Unified CMBE サーバを追加する (Windows Server 2003 で Internet Explorer 6.0 を使用する場合のみ)」の手順を実行して、[信頼済みサイト] のリストに Connection サーバを追加する。

[信頼済みサイト] のリストに Connection サーバまたは Cisco Unified CMBE サーバを追加する (Windows Server 2003 で Internet Explorer 6.0 を使用する場合のみ)

-
- ステップ 1** Cisco Personal Communications Assistant の [ログイン (Login)] ページを開きます。Cisco PCA にログインする必要はありません。
 - ステップ 2** Internet Explorer の [ファイル] メニューで、[このサイトを追加] > [信頼済みサイトゾーン] をクリックします。
 - ステップ 3** [信頼済みサイト] ダイアログボックスで、[追加] をクリックします。
 - ステップ 4** [閉じる] をクリックして、[信頼済みサイト] ダイアログボックスを閉じます。
 - ステップ 5** Internet Explorer を再起動します。
-

Cisco Unity Connection Serviceability へのアクセス

Cisco Unity Connection Serviceability に初めてログオンするときは、インストール中にインストーラが指定した、デフォルト管理者アカウントのユーザ名とパスワードを使用します。その後は、追加で作成した任意の管理者アカウントのユーザ名とパスワードを使用できます。

Cisco Unity Connection Serviceability にアクセスする

-
- ステップ 1** サポートされているブラウザを使用して、ブラウザ セッションを開きます。
 - ステップ 2** `https://<Cisco Unity Connection サーバの IP アドレス >/cuservice` に移動します。
 - ステップ 3** 適切なユーザ名とパスワードを入力し、[ログイン (Login)] をクリックします。
-

Cisco Unity Connection Serviceability にログインした後は、Cisco Unified Operating System Administration および Disaster Recovery System を除き、[Navigation] ドロップダウン ボックスに表示されるすべてのアプリケーションに、それぞれのアプリケーションにログインすることなくアクセスできるようになります。

Cisco Unity Connection Serviceability のユーザ名とパスワードを使用して Cisco Unified Operating System Administration または Disaster Recovery System にアクセスすることはできません。これらのアプリケーションに Cisco Unity Connection Serviceability からアクセスするには、Cisco Unity Connection Serviceability の右上にある [Logout] リンクをクリックした後、[Navigation] ドロップダウン ボックスでそのアプリケーションをクリックし、[Go] をクリックします。

[Navigation] ドロップダウン ボックスに表示されるアプリケーションのいずれか (Cisco Unified Operating System Administration または Disaster Recovery System 以外) にすでにログインしている場合は、ログインせずに Cisco Unity Connection Serviceability にアクセスできます。[Navigation] ドロップダウン ボックスで [Cisco Unity Connection Serviceability] をクリックし、[Go] をクリックします。

Cisco Unity Connection Serviceability インターフェイスの使用

Cisco Unity Connection Serviceability でのトラブルシューティング、レポートの生成、サービス関連タスクの実行に加えて、次のタスクを実行できます。

- 単一ウィンドウ用にドキュメントを表示するには、[Help] > [This Page] をクリックします。
- このリリースの Connection または Cisco Unified CMBE で入手可能なドキュメントのリストを表示（またはヘルプの索引にアクセス）するには、[Help] > [Contents] をクリックします。
- このサーバ上で動作している Cisco Unity Connection Serviceability のバージョンを確認するには、[Help] > [About] をクリックするか、ウィンドウの右上にある [About] リンクをクリックします。
- 設定ウィンドウから Cisco Unity Connection Serviceability のホームページに直接移動するには、[Navigation] ドロップダウン ボックスから [Cisco Unity Connection Serviceability] をクリックします。
- Cisco Unity Connection の管理またはその他のアプリケーションにアクセスするには、[Navigation] ドロップダウン ボックスで該当するアプリケーションをクリックし、[Go] をクリックします。
- Cisco Unity Connection Serviceability からログアウトするには、ウィンドウの右上にある [Logout] リンクをクリックします。
- Cisco Unity Connection Serviceability 設定ページごとに、ページの右下の設定ボタンに対応する設定アイコンが表示されます（たとえば、タスクを完了するには、保存アイコンまたは [Save] ボタンのどちらをクリックしてもかまいません）。



アラームの使用方法

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのアラームの使用方法について説明します。この章の構成は、次のとおりです。

- [アラームの概要 \(P.2-1\)](#)
- [アラーム定義 \(P.2-1\)](#)
- [アラーム定義の表示 \(P.2-2\)](#)

アラームの概要

Cisco Unity Connection Serviceability のアラームは、実行時のステータスおよびシステムの状態に関する情報を提供するので、システム関連の問題のトラブルシューティングに役立ちます。たとえば、アラームを使用して、MWI を設定できるポートがあるかどうかを判別できます。アラーム情報には、カタログ、名前、シビラティ、説明、推奨処置、ルーティングリスト、およびパラメータが含まれます。

アラームを収集するには、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で Trace and Log Central オプションを使用します。アラームを表示するには、RTMT で SysLog Viewer を使用します。

アラーム定義

アラーム定義は、アラームの意味やアラームからの回復方法など、アラーム メッセージについて説明します。

[Alarm Message Definitions] ページでアラーム情報を参照します。アラームをクリックすると、アラーム情報の説明と推奨処置が [Alarm Information] ページに表示されます。トラブルシューティング用に、定義にはアラーム名、状況、シビラティ、説明、推奨処置、ルーティングリスト、およびパラメータが含まれます。

アラーム定義の表示

この項では、アラーム定義を検索して表示する方法を説明します。

アラーム定義を表示する

ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[**Alarm**] > [**Definitions**] をクリックします。

ステップ 2 [Alarm Message Definitions] ウィンドウで、必要な定義の検索条件を入力し、[**Find**] をクリックします。



ヒント すべてのアラーム定義を表示するには、検索条件をブランクのままにして、[**Find**] をクリックします。

定義のリストが表示されます。アラーム定義のページは複数にわたる場合があります。別のページを選択するには、[Alarm Message Definitions] ウィンドウの下部にあるナビゲーション ボタンをクリックします。ウィンドウに表示されるアラームの数を変更するには、[Rows per Page] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択します。

ステップ 3 リストで、アラームの詳細を表示したいアラーム定義のハイパーリンクをクリックします。

[Alarm Information] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [Alarm Message Definitions] ウィンドウに戻るには、[Related Links] ドロップダウン リスト ボックスから [**Back to Find/List Alarms**] をクリックし、[**Go**] をクリックします。



トレースの使用法

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのトレースの使用法について説明します。この章の構成は、次のとおりです。

- [トレースの概要 \(P.3-1\)](#)
- [トレース ログ ファイルの設定 \(P.3-2\)](#)
- [マイクロ トレースの有効化 \(P.3-3\)](#)
- [使用可能なマイクロ トレース \(P.3-4\)](#)
- [マクロ トレースの有効化 \(P.3-8\)](#)
- [使用可能なマクロ トレース \(P.3-9\)](#)

トレースの概要

Cisco Unity Connection Serviceability トレースは、次のような方法で、問題のトラブルシューティングに役立てることができます。

- コンポーネントに対してトレースを実行したときに作成できるログ ファイルの最大数や最大ファイル サイズなどのログ ファイル パラメータを、Connection コンポーネントごとに指定できます。
- 必要なマイクロ トレースおよびマイクロ トレース情報のレベルを有効にできます。
- 必要なマクロ トレース (事前に選択されたマクロ トレースのグループ) およびマクロ トレース情報のレベルを有効にできます。

ログ ファイルを設定してトレースを有効にした後は、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で Trace and Log Central オプションを使用してトレース ログ ファイルを収集できます。トレース収集の詳細については、『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド』の「Trace and Log Central の使用」の章を参照してください。



(注)

マクロ トレースまたはマイクロ トレースを有効にすると、システムのパフォーマンスが低下します。トレースを有効にするのは、トラブルシューティングの場合だけです。

トレース ログ ファイルの設定

Cisco Unity Connection サービスのトレース ログ ファイルを設定するには、この項の手順を実行します。



(注) トレース情報がログ ファイルに書き込まれるようにするには、まず、選択した領域でトラブルシューティング情報を提供するマイクロ トレースまたはマクロ トレースを有効にする必要があります。

トレース ログ ファイルを設定する

ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[Trace] > [Configuration] をクリックします。

[Trace Configuration] ページが表示されます。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン ボックスで、該当する Connection サーバまたは Cisco Unified CMBE サーバをクリックし、[Go] をクリックします。

ステップ 3 [Component] ドロップダウン ボックスから、トレース ログ ファイルを設定するコンポーネントを選択し、[Go] をクリックします。



(注) ドロップダウン ボックスにすべてのコンポーネント (アクティブおよび非アクティブ) が表示されます。

ステップ 4 [Maximum No. of Files] フィールドに、このコンポーネントに対して作成するトレース ログ ファイルの最大数を入力します。

ステップ 5 [Maximum File Size] フィールドに、このコンポーネントに対して作成するトレース ログ ファイルのサイズの上限 (メガバイト単位) を入力します。

ステップ 6 デフォルト設定に戻す場合は、[Set Default] をクリックします。それ以外の場合は、次のステップに進みます。

ステップ 7 [Save] をクリックします。

ステップ 8 このコンポーネントの古いトレース ログ ファイルを新しいトレース ログ ファイルに替えたい場合は、[Restart Log Files] をクリックします。

マイクロトレースの有効化

マイクロトレースは、特定の Cisco Unity Connection コンポーネントの問題をトラブルシューティングする場合に有効にします。たとえば、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の Alert Central ツールでエラーが発生した場合は、Notifier トレースを有効にします。ただし、トレースを実行すると、システムパフォーマンスとハードディスクスペースに影響を及ぼす可能性があることに留意してください。



(注)

マイクロトレースを有効にすると、システムのパフォーマンスが低下します。トレースを有効にするのは、トラブルシューティングの場合だけです。

マイクロトレースを有効にする

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Trace] > [Micro Traces] を選択します。
[Micro Traces] ページが表示されます。
- ステップ 2** [Server] ドロップダウン ボックスで、該当する Connection サーバまたは Cisco Unified CMBE サーバをクリックし、[Go] をクリックします。
- ステップ 3** [Micro Trace] ドロップダウン ボックスで、有効にするマイクロトレースをクリックし、[Go] をクリックします。
- ステップ 4** [Micro-Trace Levels] の下で、有効にするマイクロトレースレベルのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [Save] をクリックします。



ヒント

Connection の問題をトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability および Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にする必要がある場合もあります。Connection コンポーネントをトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを有効にします。同様に、Cisco Unified Serviceability でサポートされているサービスをトラブルシューティングするには、Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にします。Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にする方法については、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

使用可能なマイクロトレース

表 3-1 で、使用可能なマイクロトレースのリストを示し、それぞれのマイクロトレースの分析内容を説明します。

表 3-1 マイクロトレース

マイクロトレース名	トレースの分析内容
Arbiter	コールに使用されるカンパセーション、ポート、およびコールルーティングルール
AudioStore	Media Master を使用してオーディオストリームを再生または録音する Web ベースのアプリケーションによって使用されるオーディオ録音サービス
AxlAccess	電話関連のプロパティを取得および設定するための AXL サーバとの対話
BulkAdministrationTool	複数のユーザまたはシステム連絡先の作成、更新、および削除に使用される Bulk Administration Tool
CCL	カレンダー機能に関する会議情報の取得
CDE	カンパセーション エンジンおよびカンパセーション イベント
CDL	データベースからの情報の取得
CML	Cisco Unity Connection メッセージストアからのメッセージの取得。テキスト/スピーチ機能を使用して電子メールメッセージを読み取るための Exchange サーバからのメッセージの取得(IMAP を使用)。
CiscoPCA	Cisco Personal Communications Assistant (Cisco PCA)
Common	Cisco Unity Connection サービスによって共有されるコンポーネント用の低レベル アクティビティ
ConfigData	データベース内で更新された設定データの検出
ConvRoutingRules	Arbiter によるコールの転送先となるカンパセーション
ConvSub	ユーザ アクティビティおよび使用状況
CsLicense	ライセンスの処理に関連する機能
CsMalUmss	CML、Notifier、および IMAP サーバによるメッセージストアへのアクセス
CsWebDav	Exchange に関連するカレンダー アクティビティ
CuCcmSynchronizationTasks	Cisco Unified CM からのユーザデータの同期化
CuCmDbEventListener	Cisco Unified CM データベースに対する変更の検出
CuCsMgr	Cisco Unity Connection の主要プロセス。Connection の起動と停止。
CuDbProxy	Cisco Unity Connection クラスタ用のデータベース レプリケーション
CuESD	Cisco Unity Connection の外部サービス診断ツールのアクティビティ
CuEncrypt	暗号化 (メッセージングを除く) と暗号化監査ログ
CuFileSync	Cisco Unity Connection クラスタ用のファイル レプリケーション
CuGal	Exchange からのカレンダーおよび連絡先情報の取得
CuImapSvr	IMAP クライアントによるボイス メッセージへのアクセス

表 3-1 マイクロトレース(続き)

マイクロトレース名	トレースの分析内容
CuReplicator	デジタル ネットワーク用のレプリケーション  (注) Debug Traces および Debug Statistics のマイクロトレースレベルでは大量のログ エントリが生成される場合があるので、これらのマイクロトレース レベルを有効にする期間は1時間以内にするをお勧めします。
CuService	Cisco Unity Connection Serviceability のアクティビティ
CuSnmpAgt	Cisco Unity Connection SNMP サブエージェントのアクティビティ
Cuca	Cisco Unity Connection の管理のアクティビティ
DataSysAgentTasks	Data SysAgent タスク
DbEvent	データベース変更のコンポーネント通知
FailureConv	システム エラーが発生した場合の失敗カンバセーションのアクティベーション
LicenseClient	ライセンス管理に関連する機能
Logger	トレース、ログ、およびイベントの書き込み
MTA	メッセージストアへのボイスメッセージの送信
MediaMasterControl	クライアントワークステーションでの Media Master
MediaMasterUMS	Media Master と AudioStore の間でストリーム オーディオ録音を処理する UMS サービス
MediaMasterWeb	Media Master を持つ Web ベースのアプリケーションで使用される Web ページ レンダリング モジュール
MessageEventService	メッセージの到着または削除の検出
MiuAdm	ボイス メッセージ ポートのテストおよび証明書の生成に関連する Cisco Unity Connection の管理内の機能
MiuCall	Miu とカンバセーションの間のプロセス
MiuDatatbase	データベースへのアクセスに関連するメディア アクティビティ
MiuGeneral	電話ユーザインターフェイス(TUI)によるコールのトラッキング、コール コントロール機能、メッセージ ウェイティング インジケータ(MWI)のオンとオフの切り替え、通知機能とアウトダイヤル機能、基本メディアまたは WAV ファイル使用量
MiuIO	TAPI (回線交換または Cisco Unified CallManager) 連動でのメディアまたは WAV ファイルの使用量
MiuMethods	着信コールの受け渡し、コール コントロール、メッセージ ウェイティング インジケータ(MWI)のオンとオフの切り替え、通知機能とアウトダイヤル機能、メディアまたは WAV ファイル使用量
MiuSIP	SIP コール コントロール
MiuSIPStack	コール コントロールのための低レベル SIP 対話
MiuSkinny	SCCP コール コントロール
MiuTranscode	トランスコーディングに関連する低レベル メディア機能
Mixer	メディアおよびテキスト / スピーチ機能に関連する低レベル アクティビティ

表 3-1 マイクロトレース(続き)

マイクロトレース名	トレースの分析内容
Monitor	コール中のボイス メッセージ ポートおよびコール処理のステータスの監視。Real-Time Monitoring Tool にポート ステータスを表示するためのサーバ側の機能。
Notifier	メッセージおよび選択されたイベントの通知、メッセージ ウェイティング インジケータ (MWI) のオンとオフの切り替え
PCAMeetingPlace	カレンダー機能用の MeetingPlace に関連する Cisco Personal Communications Assistant のアクティビティ
PCAUUnifiedCM	Cisco Unified Communications Manager 連動に関連する Cisco Personal Communications Assistant のアクティビティ
PerfMonitor	Cisco Unity Connection が使用するパフォーマンス モニタ システム オブジェクトのアクティビティ
PhoneManager	IP Phone アプリケーションの管理
PhraseServer	再生するプロンプトおよびユーザ DTMF 入力。ログはファイルに書き込まれます。
PhraseServerToMonitor	再生するプロンプトおよびユーザ DTMF 入力。ログはモニタに書き込まれます。
RSS	RSS クライアントからのボイスメールの確認に使用される RSS フィード
ReportDataHarvester	レポート データベース内のエントリに対するデータ ログ ファイル内の内容のカンパセーション
ResourceLoader	GUI での選択された言語の使用、製品またはメッセージ情報でのストリングの埋め込み
ResourceManager	使用可能なリソースを監視し、必要に応じて Arbiter に提供
RoutingRules	コール ルーティングの決定
RulesEngine	コール中にサブスクリバのパーソナル着信転送ルールを評価
SMTP	SMTP 機能
SRM	クラスタ管理に関連する機能
Scheduler	現在アクティブな Cisco Unity Connection スケジュール(通常の業務時間内または業務時間外)または休日
SocketPoolHelper	IMAP サーバへのソケット接続
SslInit	OpenSSL を使用するコンポーネントの初期化手順
SysAgent	管理者が入力するシステム タスク (MWI の再同期化など) をスケジュールするシステム エージェント コンポーネント
TRaP	クライアントが電話機を録音および再生デバイスとして使用できるようにする Telephone Record and Playback(TRaP; 電話での録音と再生)
TaskRequest	タスク管理ツールに関連する機能
TextToSpeech	テキスト / スピーチ機能のアクティビティ
ThreadPool	プロセッサによるスレッドの使用
TimerHelper	Conversation Manager コンポーネントが使用するタイマー
TranscodeWeb	着信オーディオ ストリームを、Cisco Unity Connection が使用するオーディオ形式に変換する Web サーバ オーディオ形式変換ユーティリティ

表 3-1 マイクロ トレース (続き)

マイクロ トレース名	トレースの分析内容
UmssSysAgentTasks	システム エージェント コンポーネントのメッセージ タスク
UnityAssistant	Cisco Personal Communications Assistant での Cisco Unity Assistant Web ツールのアクティビティ
UnityInbox	Cisco Personal Communications Assistant での Cisco Unity Inbox Web ツールのアクティビティ
UnityPCTR	Cisco Personal Communications Assistant での Cisco Unity パーソナル 着信転送ルール Web ツールのアクティビティ
VUI	ボイス ユーザ インターフェイス
VirtualQueue	コール キューイング

マクロ トレースの有効化

マクロ トレースは、特定の Cisco Unity Connection コンポーネントの問題をトラブルシューティングする場合に有効にします。たとえば、MWI に問題が発生した場合は、Traces for MWI Problems マクロ トレースを有効にします。ただし、トレースを実行すると、システム パフォーマンスとハードディスク スペースに影響を及ぼす可能性があることに留意してください。



(注)

マクロ トレースを有効にすると、システムのパフォーマンスが低下します。トレースを有効にするのは、トラブルシューティングの場合だけです。

マクロ トレースを有効にする

ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[Trace] > [Macro Traces] をクリックします。

[Macro Traces] ページが表示されます。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン ボックスで、該当する Connection サーバまたは Cisco Unified CMBE サーバをクリックし、[Go] をクリックします。

ステップ 3 有効にするマクロ トレースのチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 マクロ トレースを展開し、有効にするレベルのチェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [Save] をクリックします。



ヒント

Connection の問題をトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability および Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にする必要がある場合もあります。Connection コンポーネントをトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを有効にします。同様に、Cisco Unified Serviceability でサポートされているサービスをトラブルシューティングするには、Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にします。Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にする方法については、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

使用可能なマクロトレース

表 3-2 で、使用可能なマクロトレースのリストを示し、それぞれのマクロトレースの分析内容を説明します。

表 3-2 マクロトレース

マクロトレース名	トレースの分析内容
Call Flow Diagnostics	Cisco Unity Connection を通じてのコールのフロー
Message Objectid Tracking Traces	メッセージ処理。送信から削除までメッセージを処理するオブジェクト。
Call Control (Miu) Traces	コールコントロール機能
Traces for MWI Problems	メッセージ ウェイティング インジケータ (MWI) のオンとオフの切り替え
Traces for Other Notification Problems	通知機能とアウトダイヤル機能
Unity Startup	Cisco Unity Connection 起動機能
Conversation Traces	カンパセーションの使用状況
Voice User Interface/Speech Recognition Traces	ボイス ユーザ インターフェイス (VUI)
Media (Wave) Traces	メディアおよび WAV ファイル使用量
Text to Speech (TTS) Traces	テキスト / スピーチ (TTS) 機能。TTS と対話する別の Cisco Unity Connection コンポーネントにトレースを記録することもできます。
Connection Serviceability Web Service	Cisco Unified Serviceability のアクティビティ
ViewMail for Outlook	Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook クライアントのアクティビティ
Digital Networking	デジタル ネットワーク機能

■ 使用可能なマクロ トレース



Cisco Unity Connection クラスタ内のサーバのステータスとポートの管理

Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページでは、Connection クラスタ内のサーバのステータスを変更したり、サーバ上のすべてのポートで新規コールを受け入れないようにしたり、サーバ上のすべてのポートを再起動してコールを受け入れたりすることができます。

該当する手順については、『Cisco Unity Connection クラスタ コンフィギュレーション アドミニストレーションガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection クラスタの管理」の章を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/cluster_administration/guide/7xcuccagx.html から入手可能です。



(注)

Connection クラスタ機能は、Cisco Unified Communications Manager Business Edition では使用できません。



Cisco Unity Connection サービスの 管理

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのサービスの管理について説明します。この章の構成は、次のとおりです。

- [Cisco Unity Connection サービス \(P.5-1\)](#)
- [Control Center でのサービスの管理 \(P.5-3\)](#)

Cisco Unity Connection サービス

Cisco Unity Connection には次のサービスがあります。

ステータスのみのサービス

- Connection DB
- Connection Server Role Manager
- Connection Serviceability

重要なサービス

- Connection Conversation Manager
- Connection Message Transfer Agent
- Connection Mixer
- Connection Notifier

基本サービス

- Connection Administration
- Connection DB Event Publisher
- Connection License Server
- Connection SNMP Agent

オプションのサービス

- Connection Access Layer
- Connection CM Database Event Listener
- Connection Database Proxy
- Connection Digital Networking Replication Agent
- Connection File Syncer
- Connection Groupware Caching Service
- Connection IMAP Server
- Connection Inbox RSS Feed
- Connection Integrated Mailbox Configuration
- Connection Message Event Service
- Connection Personal Communication Assistant
- Connection Realtime Monitoring APIs
- Connection Reports Data Harvester
- Connection SMTP Server
- Connection System Agent
- Connection Voice Mail Web Service
- Connection Voice Recognition Transport
- Connection Voice Recognizer

Control Center でのサービスの管理

Cisco Unity Connection Serviceability の Control Center では、次の作業を実行できます。

- [Optional Services] セクションの Connection サービスをアクティベートまたはデアクティベートする。
- [Status Only Services] セクションのサービスを除くすべての Connection サービスを起動および停止する。
[Critical Services] セクションの Connection サービスを停止すると、進行中のコールが切断される場合があります、Connection サーバまたは Cisco Unified CMBE サーバの通常機能が低下します。
Cisco Unity Connection クラスタが設定されている場合は、プライマリステータスになっているサーバの [Critical Services] セクションのサービスを停止すると、クラスタ内のサーバのステータスが変更されます。
- Connection サービスのステータスを表示する。
- Connection サービスのステータスをリフレッシュする。



ヒント

問題をトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability と Cisco Unified Serviceability の両方でサービスを管理する必要があります。

Cisco Unified Serviceability サービスについては、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

この項では、5つの手順（Connection サービスのアクティベート、デアクティベート、起動、停止、またはサービスステータスのリフレッシュ）について説明します。アクティベート、デアクティベート、起動、または停止できるサービスは一度に1つだけです。

Control Center でサービスをアクティベートする

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools] > [Service Management] を選択します。
- ステップ 2** [Server] ドロップダウン ボックスで、該当する Connection サーバまたは Cisco Unified CMBE サーバを選択し、[Go] をクリックします。
- ステップ 3** [Optional Services] で、アクティベートするサービスを探します。
- ステップ 4** [Change Activate Status] カラムで、[Activate] をクリックします。

Control Center でサービスをデアクティベートする

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools] > [Service Management] を選択します。
- ステップ 2** [Server] ドロップダウン ボックスで、該当する Connection サーバまたは Cisco Unified CMBE サーバを選択し、[Go] をクリックします。
- ステップ 3** [Optional Services] で、デアクティベートするサービスを探します。

ステップ 4 [Change Activate Status] カラムで、[Deactivate] をクリックします。

Control Center でサービスを起動する

ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools] > [Service Management] を選択します。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン ボックスで、該当する Connection サーバまたは Cisco Unified CMBE サーバを選択し、[Go] をクリックします。

ステップ 3 [Optional Services] で、起動するサービスを探します。



(注) デアクティベートされているサービスを起動するには、まずアクティベートする必要があります。

ステップ 4 [Change Service Status] カラムで、[Start] をクリックします。

Control Center でサービスを停止する

ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools] > [Service Management] を選択します。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン ボックスで、該当する Connection サーバまたは Cisco Unified CMBE サーバを選択し、[Go] をクリックします。

ステップ 3 停止するサービスを探します。



(注) [Status Only Services] セクションのサービスは、Cisco Unity Connection Serviceability で起動および停止することはできません。これらのサービスを起動または停止するには、コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用する必要があります。

Connection クラスタが設定されている場合は、プライマリ ステータスになっているサーバの [Critical Services] セクションのサービスを停止すると、クラスタ内のサーバのステータスが変更されます。サービスを停止したときにステータスが変更されないようにするには、Cisco Unity Connection の管理で、[パブリッシャ サーバで障害が発生した場合は、自動的にサーバのステータスを変更する (Automatically change server status when the Publisher server fails)] チェックボックスをオフにする必要があります (このチェックボックスは、[システム設定 (System Settings)] > [詳細設定 (Advanced)] > [クラスタ設定 (Cluster Configuration)] ページにあります)。

ステップ 4 [Change Service Status] カラムで、[Stop] をクリックします。



(注) [Critical Services] セクションの Connection サービスを停止すると、進行中のコールが切断される場合があります。Connection サーバまたは Cisco Unified CMBE サーバの通常機能が低下します。

アクティベートされていないサービスを起動および停止することはできません。

ステップ 5 クラスタ サーバ ステータスを変更するかどうか確認を求められた場合は、[OK] をクリックします。

Control Center でサービス ステータスをリフレッシュする

ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools] > [Service Management] を選択します。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン ボックスで、該当する Connection サーバまたは Cisco Unified CMBE サーバを選択し、[Go] をクリックします。

ステップ 3 [Refresh] をクリックします。

現在のステータスを反映するようにステータス情報が更新されます。



レポートの使用方法

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのレポートの使用方法について説明します。この章の構成は、次のとおりです。

- [レポートの概要 \(P.6-1\)](#)
- [レポート設定パラメータの設定 \(P.6-5\)](#)
- [レポートの生成と表示 \(P.6-6\)](#)

レポートの概要

Cisco Unity Connection Serviceability を使用すると、システムの設定とコールハンドラについての情報を収集してレポートを作成できます。

表 6-1 では、Cisco Unity Connection Serviceability で生成できるレポートについて説明します。

表 6-1 Cisco Unity Connection Serviceability で使用できるレポート

レポート名	出力の説明
Phone Interface Failed Logor(電話インターフェイスのログイン失敗)	電話での Connection へのログオンが失敗した場合に、そのすべてのログオン試行について次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none">• ログオンに失敗したユーザのユーザ名、エイリアス、発信者 ID、および内線番号。• ログオン試行が失敗した日時。• ユーザが、ログオン失敗の最大回数に達したかどうか。
Users (ユーザ)	各ユーザに関する次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none">• 姓、名、およびエイリアス。• ユーザに関連付けられている Connection サーバまたは Cisco Unified CMBE サーバを識別するための情報。• 課金 ID、サービスクラス、および内線番号。• アカウントがロックされているかどうか。• ユーザがパーソナル着信転送ルールを有効にしているかどうか。

表 6-1 Cisco Unity Connection Serviceability で使用できるレポート (続き)

レポート名	出力の説明
Message Traffic (メッセージトラフィック)	次のトラフィック カテゴリの総数が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> 音声。 ファックス。 電子メール。 NDR。 配信。 受信確認。 時間別合計。
Port Activity (ポート アクティビティ)	ボイス メッセージ ポートに関する次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> 名前。 処理されたインバウンド コールの数。 処理されたアウトバウンド MWI コールの数。 処理されたアウトバウンド AMIS コールの数。 処理されたアウトバウンド通知コールの数。 処理されたアウトバウンド TRaP コールの数。 処理された通話の合計数。
Mailbox Store (メールボックスストア)	指定されたメールボックス ストアに関する次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> メール データベース名。 表示名。 サーバ名。 アクセスが可能かどうか。 メールボックス ストアのサイズ。 最後のエラー。 ステータス。 メール データベースを削除できるかどうか。
Dial Plan (ダイヤル プラン)	Connection サーバまたは Cisco Unified CMBE サーバに設定されているサーチ スペースのリスト、および各サーチ スペースに割り当てられているパーティションの順序付きリストが含まれています。 [Digital Network] に属するサーバの場合は、ネットワーク上の他のすべての Connection の場所にあるサーチ スペースおよび関連付けられたパーティション メンバシップのリストも含まれています。
Dial Search Scope (ダイヤル検索範囲)	Connection ディレクトリに設定されている指定のパーティション内のすべてのオブジェクトとそれらの内線番号のリストが含まれています。パーティションが指定されていない場合は、ディレクトリに設定されているすべてのパーティションを対象として、すべてのオブジェクトとそれらの内線番号のリストが含まれています。

表 6-1 Cisco Unity Connection Serviceability で使用できるレポート (続き)

レポート名	出力の説明
Subscriber Message Activity (ユーザメッセージアクティ ビティ)	送受信されたメッセージに関して、次の情報がユーザごとに含ま れています。 <ul style="list-style-type: none"> 名前、内線番号、およびサービス クラス。 各メッセージの日時。 各メッセージの送信元に関する情報。 完了した操作 (新しいメッセージ、メッセージの開封、MWI オン要求など) ユーザが受信した新しいメッセージの数、およびメッセ ージ送信者に関する情報。 発信番号と結果。
Distribution Lists (同報リスト)	次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> リストの名前と表示名。 リストの作成日時。(日時はグリニッジ標準時で示されま す) リストに含まれているユーザの番号の数。 [Include List Members] チェックボックスをオンにした場 合は、リストのメンバーになっている各ユーザのエイリアスのリス ト。
User Lockout (ユーザ ロックア ウト)	ユーザのエイリアス、ユーザがログオンに失敗した回数、資格の タイプ (結果が「4」の場合は Connection ガイダンスからのログ オン試行を示し、「3」の場合は Web アプリケーションからのログ オン試行を示す) およびアカウントがロックされた日時が含まれ ています。 (日時はグリニッジ標準時で示されます)
Unused Voice Mail Account (未 使用ボイスメール アカウ ント)	ユーザのエイリアスと表示名、およびユーザ アカウントの作成日 時が含まれています。 (日時はグリニッジ標準時で示されます)
Transfer Call Billing (転送コー ル課金)	各通話に関する次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> ユーザの名前、内線番号、および課金 ID。 通話が発生した日時。 ダイヤルされた電話番号。 転送の結果 (接続、応答なし (RNA)、通話中、不明)。
Outcall Billing Detail (発信課金 詳細)	次の情報が含まれています。これらの情報は、日付および電話を かけたユーザの内線番号に基づいて整理されています。 <ul style="list-style-type: none"> 名前、内線番号、および課金 ID。 通話の発生日時。 ダイヤルされた電話番号。 通話の結果 (接続、応答なし (RNA)、通話中、不明)。 通話の長さ (秒)。
Outcall Billing Summary (発信 課金要約)	日付および電話をかけたユーザの名前、内線番号、および課金 ID に基づいて整理されています。これは 1 日 (24 時間) のリストで あり、指定された日の各 1 時間の発信時間 (秒単位) が示されて います。

表 6-1 Cisco Unity Connection Serviceability で使用できるレポート (続き)

レポート名	出力の説明
Call Handler Traffic (コールハンドラ トラフィック)	各コールハンドラに関する次の情報が含まれています。1日の各1時間に1行使用されています。 <ul style="list-style-type: none"> • 通話の合計数。 • 電話機のキーパッドの各キーが押された回数。 • 内線番号。 • 無効な内線番号。 • グリーティング再生後の操作が発生した回数。 • 発信者が電話を切った回数。
System Configuration(システムの設定)	Connection システムの設定のすべての面に関する詳細な情報が含まれています。

レポート設定パラメータの設定

Cisco Unity Connection は、レポート生成の基礎となるデータを収集して格納するように自動的に設定されます。この項に記載されているパラメータは、生成するレポートの出力内容に応じて調整できます。レポートのパラメータ設定は、すべて Cisco Unity Connection の管理の [システム設定 (System Settings)] > [詳細設定 (Advanced)] > [レポート (Reports)] ページにあります。

レポート データは、設定したデータ保存期間パラメータに基づいて、徐々に上書きされていきます。履歴を残すためにレポートを保管しておく場合は、レポートを定期的に生成するスケジュールを計画し、それらのレポートを Connection サーバまたは Cisco Unified CMBE サーバ以外の場所に保存することをお勧めします。

[**データ収集サイクルの間隔 (ミリ秒) (Milliseconds Between Data Collection Cycles)**]: デフォルトでは、30 分 (1,800,000 ミリ秒) に設定されています。この設定によって、レポート データを収集する各サイクル間に Connection が待機する時間の長さを制御します。

[**レポートデータベースのデータ保存期間 (日) (Days to Keep Data in Reports Database)**]: デフォルトでは、180 日に設定されています。生成しようとするレポートに対して、この日数を超える値を対象期間として指定しても、データの日数はここで設定する値によって制限されます。

[**レポート出力の最大レコード数 (Maximum Records in Report Output)**]: デフォルトでは、25,000 レコードに設定されています。このフィールドに指定できる最大値は、30,000 レコードです。生成しようとするレポートで、レコード数がこの許容最大値を超える場合は、レポートを何回かに分けて生成します (たとえば、データ範囲を狭くするか、各期間に含まれるユーザ アカウントの数を減らします)。



(注)

ユーザのメッセージ アクティビティ レポートでは、[レポート出力の最大レコード数 (Maximum Records in Report Output)] の設定が、デフォルトの 25,000 レコードではなく 15,000 レコードに制限されます。これは、レポートのサイズが大きくなるためです。

[**進捗インジケータを表示するために必要な最小レコード数 (Minimum Records Needed to Display Progress Indicator)**]: デフォルトでは、2,500 レコードに設定されています。このフィールドに指定できる最大値は、10,000 レコードです。進捗インジケータの目的は、要求したレポートのサイズが大きく、完了に時間がかかる場合に警告することです。Connection では、レポートはブラウザから生成します。このブラウザ セッションは、レポートを生成している間は開いたままにしておく必要があります。データベースのサイズや生成しているレポートのタイプによっては、レポートの生成に時間がかかることがあります。この間、管理者はブラウザを使用できず、Connection の管理のセッションを開いたままにしておく必要があります。

レポートの生成と表示

レポートを生成する場合、次の項目の一部またはすべてを指定できます。

- レポートに含めるオブジェクト（ユーザアカウントやコールハンドラなど）
- レポートに含める日付と時刻の範囲
- レポート内のデータのソート順

レポートのファイル形式は、次の中から選択できます。

[Web page]	HTML ファイル。レポート出力は、Web ブラウザに表示されます。 小さなレポートをすぐに表示するには、この形式を選択します。 レポートを保管しておく場合は、PDF レポートを生成することをお勧めします。
[Comma-delimited file]	テキスト ファイル（カンマ区切り、または CSV ファイルとも呼ばれる）。レポート出力は、カンマ区切りのデータ スtring として表示されます。 スプレッドシート プログラムなど、別のアプリケーションで情報を表示または印刷する場合に、この形式を選択します。
[PDF file]	レポート出力は、印刷および保存が可能な PDF として表示されます。 レポートを保管しておく場合は、この形式を選択することをお勧めします。

レポートを生成するには、システムがビジー状態でないときが最適です。Connection が多くの通話を処理していない通常の営業時間後、または他のプロセスが実行中でない場合（たとえば、フルバックアップの前後）です。レポート生成要求は、キューに入れられます。複数のレポートが（それぞれ別のブラウザから）同時に生成される場合、レポートは順に待機し、一度に1つずつ処理されます。



注意

システムがビジー状態のときに大きなレポートを生成すると、システム リソースを消費し、結果としてシステム ユーザに対する応答時間が長くなる可能性があります。

レポートは、事前にスケジュールを設定できません。レポートの生成中に Connection サーバまたは Cisco Unified CMBE サーバをシャットダウンするか、Connection の管理のブラウザ セッションを閉じると、レポートの生成はキャンセルされます。

レポートを生成して表示する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools] > [Reports] を選択します。
- ステップ 2** [Serviceability Reports] ページで、生成するレポートの名前をクリックします。
- ステップ 3** レポート出力の適切なファイル形式を選択します。
- ステップ 4** フィールドが使用可能な場合は、開始日時と終了日時（年、月、日、時刻）をクリックして、日付範囲を設定します。

ステップ5 必要に応じて、その他のパラメータを設定します。

ステップ6 [Generate Report] をクリックします。

ステップ7 [ステップ3](#) で選択したファイル形式に応じた方法で、レポート出力を表示します。

[Web Page]	出力はブラウザ ウィンドウに表示されます。
[Comma-delimited File]	ファイル ダウンロード ダイアログボックスが表示され、ファイルを開くか、保存するように求められます。
[PDF File]	ファイル ダウンロード ダイアログボックスが表示され、ファイルを開くか、保存するように求められます。



INDEX

- C**
- Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool。「RTMT」を参照
 - Cisco Unity Connection Serviceability について 1-2
 - Cisco Unity Connection Serviceability の機能 1-2
 - Control Center
 - サービスの管理に使用 5-3
 - サービスのリスト 5-1
- F**
- Firefox、管理者ワークステーションでの設定 1-3
- I**
- Internet Explorer、管理者ワークステーションでの設定 1-3
- R**
- RTMT、アラームを収集および表示するために使用 2-1
- あ**
- アクセス
 - Cisco Unity Connection Serviceability 1-5
 - ヘルプ 1-6
 - アラーム
 - 概要 2-1
 - 定義 2-1
 - 定義の表示 2-2
 - データベースでの定義の検索 2-1
- い**
- インターフェイス、使用 1-6
- か**
- 確認、バージョン 1-6
 - 管理
 - Cisco Unity Connection クラスタ内のサーバステータス 4-1
 - Cisco Unity Connection クラスタ内のポート 4-1
 - 管理者ワークステーションでのブラウザの設定 1-3
- き**
- 機能サービス
 - 起動、停止、再起動、およびリフレッシュ 5-3
 - ~のリスト 5-1
- こ**
- コールハンドラトラフィックレポート (Call Handler Traffic Report) 説明 6-4
- さ**
- サーバステータス、Cisco Unity Connection クラスタ内の~の管理 4-1
 - サービス
 - アクティベート 5-3
 - 起動 5-3
 - デアクティベート 5-3
 - 停止 5-3
 - ~のリスト 5-1
 - リフレッシュ 5-3
 - サービスのアクティベート 5-3
 - サービスの起動 5-3
 - サービスのデアクティベート 5-3
 - サービスの停止 5-3
 - サービスのリフレッシュ 5-3

- し
- システムの設定レポート (System Configuration Report)、説明 6-4
 - 使用、インターフェイス 1-6
 - 診断トレース、概要 3-1
- せ
- 設定、管理者ワークステーションでのブラウザ 1-3
- た
- ダイヤル プラン レポート (Dial Plan Report)、説明 6-2
 - ダイヤル検索範囲レポート (Dial Search Scope Report)、説明 6-2
- て
- データベース、アラーム定義の検索 2-1
 - 転送コール課金レポート (Transfer Call Billing Report)、説明 6-3
 - 電話インターフェイスのログイン失敗レポート (Phone Interface Failed Logon Report)、説明 6-1
- と
- 同報リスト レポート (Distribution Lists Report)、説明 6-3
- トレース
- 概要 3-1
 - マイクロ~のリスト 3-4
 - マイクロ、有効化 3-3
 - マクロ~のリスト 3-9
 - マクロ、有効化 3-8
 - ログファイルの設定 3-2
- は
- バージョン、確認 1-6
 - 発信課金詳細レポート (Outcall Billing Detail Report)、説明 6-3
 - 発信課金要約レポート (Outcall Billing Summary Report)、説明 6-3
 - パラメータ、レポート用の設定 6-5
- ふ
- ブラウザ、管理者ワークステーションでの設定 1-3
- へ
- ヘルプ、アクセス 1-6
- ほ
- ポート、Cisco Unity Connection クラスタ内の~の管理 4-1
 - ポート アクティビティ レポート (Port Activity Report)、説明 6-2
- ま
- マイクロトレース
 - ~のリスト 3-4
 - 有効化 3-3
 - マクロトレース
 - ~のリスト 3-9
 - 有効化 3-8
- み
- 未使用ボイスメール アカウント レポート (Unused Voice Mail Accounts Report)、説明 6-3
- め
- メールボックス ストア レポート (Mailbox Store Report)、説明 6-2
 - メッセージトラフィック レポート (Message Traffic Report)、説明 6-2
- ゆ
- ユーザメッセージアクティビティ レポート (Subscriber Message Activity Report)、説明 6-3
 - ユーザ レポート (Users Report)、説明 6-1
 - ユーザ ロックアウト レポート (User Lockout Report)、説明 6-3

れ

レポート

- 生成 6-6
 - 設定パラメータの設定 6-5
 - 説明 6-1
 - 表示 6-6
- レポート設定パラメータの設定 6-5
 - レポートの生成 6-6
 - レポートの表示 6-6

ろ

- ログファイル、トレース用に設定 3-2